



## 管理 IP アドレスの設定

- [管理 IP アドレス \(1 ページ\)](#)
- [モジュラ サーバの管理 IP アドレスの設定 \(2 ページ\)](#)
- [サービスプロファイルまたはサービスプロファイルテンプレートでの管理 IP アドレスの設定 \(5 ページ\)](#)
- [管理 IP プールの設定 \(7 ページ\)](#)
- [システム名の変更 \(11 ページ\)](#)
- [クラスタの管理サブネットの変更 \(11 ページ\)](#)
- [クラスタの管理プレフィックスの変更 \(12 ページ\)](#)

## 管理 IP アドレス

Cisco UCS ドメイン 内の各サーバでは、1 つ以上の管理 IP アドレスが、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) に割り当てられているか、またはサーバに関連付けられたサービス プロファイルに割り当てられている必要があります。Cisco UCS Manager は、CIMC で終端する外部アクセスにこれらの IP アドレスを使用します。この外部アクセスは、次のいずれかのサービスを経由できます。

- KVM コンソール
- Serial over LAN
- IPMI ツール

サーバの CIMC にアクセスするために使用される管理 IP アドレスには、アウトオブバンド (OOB) アドレス (そのアドレスからトラフィックが管理ポート経由でファブリックインターコネクトを通過する)、またはインバンドアドレス (そのアドレスからトラフィックがファブリックアップリンクポート経由でファブリックインターコネクトを通過する) を使用できます。最大 6 つの IP アドレス (2 つはアウトオブバンド (OOB) アドレス、他 4 つはインバンドアドレス) がサーバの CIMC にアクセスするように設定できます。

以下の管理 IP アドレスを設定できます。

- サーバに直接割り当てられるスタティック OOB IPv4 アドレス

- グローバル ext-mgmt プールからサーバに割り当てられる OOB IPv4 アドレス
- サーバに関連付けられたサービス プロファイルから取得するインバンド IPv4 アドレス
- 管理 IP プールから取り込まれ、サービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートに割り当てられるインバンド IPv4 アドレス
- サーバに直接割り当てられるスタティック インバンド IPv6 アドレス
- サーバに関連付けられたサービス プロファイルから取得するインバンド IPv6 アドレス

サーバの各 CIMC およびサーバに関連付けられたサービス プロファイルに、複数の管理 IP アドレスを割り当てることができます。その場合は、それぞれ異なる IP アドレスを使用する必要があります。

サービス プロファイルに関連付けられた管理 IP アドレスは、そのサービス プロファイルとともに移動します。サービス プロファイルを別のサーバに移行するときに KVM または SoL セッションがアクティブな場合、Cisco UCS Manager はそのセッションを強制終了しますが、移行完了後にはセッションを再開しません。管理 IP アドレスは、サービス プロファイルを作成または変更するときに設定します。



- (注) IP アドレスが Cisco UCS ドメイン のサーバまたはサービス プロファイルにすでに割り当てられている場合、サーバまたはサービス プロファイルにスタティック IP アドレスを割り当てることはできません。そのような設定を試行すると、Cisco UCS Manager は IP アドレスがすでに使用中であると警告し、設定を拒否します。

ARP 要求は、インバンド IP アドレスが設定された各サーバからゲートウェイ IP アドレスに毎秒送信されます。これは、現在のファブリック インターコネクトを使用したインバンド トラフィック用の接続が動作しているかを確認し、動作していない場合は他のファブリック インターコネクトに対してフェールオーバーを開始するためです。インバンド用に選択されたパスとフェールオーバー処理は、サーバのデータ トラフィックから完全に独立しています。

## モジュラ サーバの管理 IP アドレスの設定

### モジュラ サーバでスタティック IP アドレスを使用するための設定

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server</b> <i>chassis-id / cartridge-id / server-id</i>	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/cartridge/server # <b>scope cimc</b>	サーバ CIMC モードに入ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # <b>create ext-static-ip</b>	指定されたサーバのスタティック管理 IP アドレスを作成します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip # <b>set addr ip-addr</b>	サーバに割り当てられるスタティック IPv4 アドレスを指定します。
ステップ 5	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip # <b>set default-gw ip-addr</b>	IP アドレスが使用するデフォルト ゲートウェイを指定します。
ステップ 6	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip # <b>set subnet ip-addr</b>	IP アドレスのサブネット マスクを指定します。
ステップ 7	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、シャーシ 1 カートリッジ 1 のサーバ 1 にスタティック管理 IP アドレスを設定し、スタティック IPv4 アドレス、デフォルト ゲートウェイ、サブネット マスクを設定して、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1/1
UCS-A /chassis/cartridge/server # scope cimc
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # create ext-static-ip
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set addr 192.168.10.10
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set default-gw 192.168.10.1
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set subnet 255.255.255.0
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # commit-buffer
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip #
```

## モジュラ サーバでスタティック IPv6 アドレスを使用するための設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-id / cartridge-id / server-id</b>	指定したサーバのサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/cartridge/server # <b>scope cimc</b>	サーバ CIMC モードに入ります。
ステップ 3	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # <b>create ext-static-ip6</b>	指定されたサーバのスタティック管理 IPv6 アドレスを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip6 # <b>set addr ipv6-addr</b>	サーバに割り当てられるスタティック IPv6 アドレスを指定します。
ステップ 5	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip6 # <b>set default-gw ipv6-addr</b>	IPv6 アドレスが使用するデフォルトゲートウェイを指定します。
ステップ 6	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip6 # <b>set prefix ipv6-addr</b>	IPv6 アドレスのネットワークプレフィックスを指定します。
ステップ 7	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip6 # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、シャーシ 1 カートリッジ 1 のサーバ 1 にスタティック管理 IPv6 アドレスを設定し、スタティック IPv6 アドレス、デフォルトゲートウェイ、ネットワークプレフィックスを設定して、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1/1
UCS-A /chassis/cartridge/server # scope cimc
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # create ext-static-ip6
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set addr 2001:888::10
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set default-gw 2001:888::100
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # set prefix 64
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip* # commit-buffer
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ext-static-ip #
```

## サーバで管理 IP プールを使用するための設定

スタティック管理 IP アドレスを削除すると、指定サーバを管理 IP プールに戻します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope server chassis-id / cartridge-id / server-id</b>	指定したサーバのサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/cartridge/server # <b>scope cimc</b>	サーバ CIMC モードに入ります。
ステップ 3	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # <b>delete {ext-static-ip   ext-static-ip6}</b>	外部スタティック IPv4 または IPv6 アドレスを削除し、管理 IP プールにサーバに戻します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次の例では、シャーシ 1 カートリッジ 1 のサーバ 1 のスタティック管理 IP アドレスを削除して、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1/1
UCS-A /chassis/cartridge/server # scope cimc
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # delete ext-static-ip
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ #
```

次の例では、シャーシ 1 カートリッジ 1 のサーバ 1 のスタティック管理 IPv6 アドレスを削除して、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/1/1
UCS-A /chassis/cartridge/server # scope cimc
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc # delete ext-static-ip6
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/cartridge/server/cimc/ #
```

## サービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートでの管理 IP アドレスの設定

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org</b> <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。  ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope service-profile</b> <i>profile-name</i>	指定したサービスで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # <b>set</b> <b>ext-mgmt-ip-state</b> { <i>none</i>   <i>ext-pooled-ip</i>   <i>ext-pooled-ip6</i>   <i>ext-static-ip</i>   <i>ext-static-ip6</i> }	管理 IPv4 または IPv6 アドレスをサービス プロファイルに割り当てる方法を指定します。  次のオプションを使用して管理 IP アドレス ポリシーを設定できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>none</b> : サービス プロファイルに IP アドレスは割り当てられません。</li> <li>• <b>pooled</b> : サービス プロファイルに管理 IPv4 または IPv6 プールから IP アドレスが割り当てられます。</li> <li>• <b>static</b> : サービス プロファイルに設定済みのスタティック IPv4 または IPv6 アドレスが割り当てられます。</li> </ul> <p>(注) サービス プロファイル テンプレートでは <b>ext-management-ip-state</b> を <b>static</b> に設定することはサポートされておらず、設定するとエラーが発生します。</p>
<b>ステップ 4</b>	<b>UCS-A /org/service-profile # commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次に、**accounting** というサービス プロファイルの管理 IP アドレス ポリシーを **static IPv4** に設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile accounting
UCS-A /org/service-profile # set ext-mgmt-ip-state ext-static-ip
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

## 次のタスク

管理 IP アドレスを **static** に設定する場合、スタティック IP アドレスを使用するようにサーバを設定します。

# 管理 IP プールの設定

## 管理 IP プール

デフォルトの管理 IP プールである IP Pool ext-mgmt は、外部 IPv4 および IPv6 アドレスの集まりです。Cisco UCS Manager は、サーバの CIMC で終端する外部アクセスのために、管理 IP プールに IP アドレスの各ブロックを予約しています。

デフォルトでは、IP Pool ext-mgmt を使用して CIMC アウトバウンド管理 IP アドレスを設定します。スタティック IP アドレスがこのプールからサーバに割り当てられてしまうと、この IP プールを変更できません。スタティック IP アドレスから CIMC のアウトバウンド管理 IP アドレスを設定する場合は、デフォルトの管理 IP プールから IP アドレスを削除できます。

アウトオブバンド IPv4 アドレスプール、およびインバンド IPv4 または IPv6 アドレスプールは個別に設定できます。IPv4 と IPv6 アドレスブロックの両方を含むインバンドプールも設定できます。



**ヒント** サーバ CIMC に IPv4 アドレスのみを含む IP プールがインバンド IPv6 ポリシーとして割り当てられたり、IPv6 アドレスのみを含む IP プールがインバンド IPv4 ポリシーとして割り当てられたりされないように、それぞれが IPv4 または IPv6 アドレスのみを持つ個別のインバンドアドレスプールを設定することを推奨します。

管理 IP プールの IP アドレスを使用するようにサービス プロファイルとサービス プロファイル テンプレートを設定できます。管理 IP プールを使用するようサーバを設定することはできません。

管理 IP プール内のすべての IP アドレスは、同じ IPv4 サブネットに含まれるか、ファブリック インターコネクットの IP アドレスと同じ IPv6 ネットワーク プレフィックスが付けられている必要があります。



**(注)** サーバまたはサービス プロファイルのスタティック IP アドレスとして割り当てられている IP アドレスは、管理 IP プールに含まれてはなりません。

## 管理 IP プールの IP アドレス ブロックの設定

サーバまたはサービス プロファイルのスタティック IP アドレスとして割り当てられている IP アドレスは、管理 IP プールに含まれてはなりません。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org /</b>	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope ip-pool ext-mgmt</b>	組織 IP プール モードを開始します。  (注) 管理 IP プールの作成 (または削除) はできません。既存のデフォルトプールに入る (スコープを設定する) ことだけが可能です。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/ip-pool # <b>set descr description</b>	管理 IP プールに説明を記入します。この説明は管理 IP プールのすべてのアドレス ブロックに適用されます。  (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明の前後に引用符を付ける必要があります。引用符は、 <b>show</b> コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /org/ip-pool # <b>set assignmentorder {default   sequential}</b>	次のいずれかになります。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default</b> : Cisco UCS Manager はプールからランダム ID を選択します。</li> <li>• <b>sequential</b> : Cisco UCS Manager はプールから最も小さい使用可能な ID を選択します。</li> </ul>
ステップ 5	UCS-A /org/ip-pool # <b>create block first-ip-addr last-ip-addr gateway-ip-addr subnet-mask</b>	IP アドレス ブロック (範囲) を作成し、組織 IP プール ブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IP アドレス、ゲートウェイ IP アドレス、およびサブネットマスクを指定します。  (注) IP プールには、複数の IP ブロックを含めることができます。複数のブロックを作成するには、組織 IP プール モードから複数の <b>create block</b> コマンドを入力します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/ip-pool/block # <b>set primary-dns ip-address secondary-dns ip-address</b>	プライマリ DNS とセカンダリ DNS の IP アドレスを指定します。
ステップ 7	UCS-A /org/ip-pool/ ipv6-block # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 8	UCS-A /org/ip-pool/block # <b>exit</b>	IPv4 ブロック コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 9	UCS-A /org/ip-pool # <b>create ipv6-block first-ip6-addr last-ip6-addr gateway-ip6-addr prefix</b>	IPv6 アドレスのブロック (範囲) を作成し、組織 IP プール IPv6 ブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IPv6 アドレス、ゲートウェイ IPv6 アドレス、およびネットワークプレフィックスを指定する必要があります。  (注) IPv6 プールには、複数の IP ブロックを含めることができます。複数の IPv6 ブロックを作成するには、組織 IP プール モードから複数の <b>create ipv6-block</b> コマンドを入力します。
ステップ 10	UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block # <b>set primary-dns ip6-address secondary-dns ip6-address</b>	プライマリ DNS とセカンダリ DNS の IPv6 アドレスを指定します。
ステップ 11	UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

## 例

次の例では、管理 IP プールの IPv4 アドレス ブロックを設定し、プライマリおよびセカンダリ IPv4 アドレスを指定し、IPv6 ブロックを作成し、プライマリおよびセカンダリ IPv6 アドレスを指定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool ext-mgmt-ip
UCS-A /org/ip-pool* # set descr "This is a management ip pool example."
UCS-A /org/ip-pool* # create block 192.168.100.1 192.168.100.200 192.168.100.10
255.255.255.0
UCS-A /org/ip-pool/block* # set primary-dns 192.168.100.1 secondary-dns 192.168.100.20
UCS-A /org/ip-pool/block* commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/block exit
UCS-A /org/ip-pool* # create ipv6-block 2001:888::10 2001:888::100 2001:888::1 64
UCS-A /org/ip-pool/ipv6- block* set primary-dns 2001:888::11 secondary-dns 2001:888::12
```

```
UCS-A /org/ip-pool/ipv6- block* commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/ipv6- block #UCS-A /org/ip-pool/block* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/block #
```

次の例では、管理 IP プールの IPv6 アドレス ブロックを設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org #scope ip-pool ext-mgmt ip
UCS-A /org/ip-pool* # set descr "This is a management IPv6 pool example."
UCS-A /org/ip-pool* # create ipv6-block 2001:888::10 2001:888::100 2001:888::1 64
UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block* #
```

### 次のタスク

1 つ以上のサービス プロファイルまたはサービス プロファイル テンプレートを設定し、管理 IP プールから CIMC IP アドレスを取得します。

## 管理 IP プールからの IP アドレス ブロックの削除

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope org org-name</b>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # <b>scope ip-pool ext-mgmt</b>	管理 IP プールを入力します。
ステップ 3	UCS-A /org/ip-pool # <b>delete</b> { <i>ip-block ipv6-block</i> } { <i>first-ip-addr first-ip6-addr</i> } { <i>last-ip-addr last-ip6-addr</i> }	IPv4 または IPv6 アドレスの指定されたブロック（範囲）を削除します。
ステップ 4	UCS-A /org/ip-pool # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

### 例

次に、管理 IP プールから IP アドレス ブロックを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool ext-mgmt
UCS-A /org/ip-pool # delete block 192.168.100.1 192.168.100.200
UCS-A /org/ip-pool* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool #
```

次に、管理 IP プールから IPv6 アドレス ブロックを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool pool4
UCS-A /org/ip-pool # delete ipv6-block 2001::1 2001::10
UCS-A /org/ip-pool* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool #
```

## システム名の変更

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /system # <b>set name name</b>	システム名を設定します。
ステップ 3	UCS-A /system # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

名前は、トランザクションがコミットされた後、30秒ほどの間に両方のファブリックインターコネクで更新されます。

### 例

次の例は、システム名を変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system* # set name SanJose5
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

## クラスタの管理サブネットの変更

クラスタ設定の IPv4 管理サブネットを変更する場合は、次の 3 つの IPv4 アドレスを同時に変更する必要があり、3 つのアドレスは同じサブネットに設定する必要があります。

- ファブリック インターコネク A の管理ポートの IP アドレス
- ファブリック インターコネク B の管理ポートの IP アドレス
- クラスタ IP (仮想 IP) アドレス

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope fabric-interconnect a</b>	ファブリック A のファブリック インターコネクト モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /fabric-interconnect # <b>set out-of-band ip ip-address netmask netmask gw gateway-ip-address</b>	ファブリック インターコネクトの IP アドレス、ネットワーク マスク、およびゲートウェイ IP アドレスを設定します。
ステップ 3	UCS-A /fabric-interconnect # <b>scope fabric-interconnect b</b>	ファブリック B のファブリック インターコネクト モードを開始します。
ステップ 4	UCS-A /fabric-interconnect # <b>set out-of-band ip ip-address netmask netmask gw gateway-ip-address</b>	ファブリック インターコネクトの IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ IP アドレスを設定します。
ステップ 5	UCS-A /fabric-interconnect # <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A /system # <b>set virtual-ip vip-address</b>	クラスタの仮想 IP アドレスを設定します。
ステップ 7	UCS-A /system # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

トランザクションをコミットすると、管理セッションから切断されます。新しい管理 IP アドレスに再接続します。

## 例

この例は、両方のファブリック インターコネクトの IP アドレスを変更し、仮想 IP アドレスを変更し、トランザクションをコミットして、セッションを切断します。

```
UCS-A# scope fabric-interconnect a
UCS-A /fabric-interconnect # set out-of-band ip 192.0.2.111 netmask 255.255.255.0 gw 192.0.2.1
UCS-A /fabric-interconnect* # scope fabric-interconnect b
UCS-A /fabric-interconnect* # set out-of-band ip 192.0.2.112 netmask 255.255.255.0 gw 192.0.2.1
UCS-A /fabric-interconnect* # scope system
UCS-A /system* # set virtual-ip 192.0.2.113
UCS-A /system* # commit-buffer
```

## クラスタの管理プレフィックスの変更

クラスタ設定の IPv6 管理プレフィックスを変更する場合は、次の 3 つの IPv6 アドレスを同時に変更する必要があります。3 つのアドレスは同一ネットワークプレフィックス内に設定する必要があります。

- ファブリック インターコネク ト A の管理ポートの IPv6 アドレス
- ファブリック インターコネク ト B の管理ポートの IPv6 アドレス
- クラス タ IPv6 (仮想 IPv6) アドレス

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# <b>scope fabric-interconnect a</b>	ファブリック A のファブリック インターコネク ト モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A fabric-interconnect # <b>scope ipv6-config</b>	ファブリック A の IPv6 コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A fabric-interconnect/ ipv6-config # <b>set out-of-band ipv6 ipv6 addr ipv6-gw ipv6-gw-addr ipv6-prefix prefix</b>	ファブリック A の管理 IPv6 アドレス、ゲートウェイ IPv6 アドレスおよびネットワークプレフィックスを設定します。
ステップ 4	UCS-A fabric-interconnect/ipv6-config # <b>scope fabric-interconnect b</b>	ファブリック B のファブリック インターコネク ト モードを開始します。
ステップ 5	UCS-A fabric-interconnect/ # <b>scope ipv6-config</b>	ファブリック B の IPv6 コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	UCS-A/fabric-interconnect/ipv6-config # <b>set out-of-band ipv6 ipv6 addr ipv6-gw ipv6-gw-addr ipv6-prefix prefix</b>	ファブリック B の管理 IPv6 アドレス、ゲートウェイ IPv6 アドレスおよびネットワークプレフィックスを設定します。
ステップ 7	UCS-A/fabric-interconnect/ipv6-config # <b>scope system</b>	システム モードを開始します。
ステップ 8	UCS-A/system # <b>set virtual-ip ipv6 virtual-ip6-addr</b>	クラス タの仮想 IPv6 アドレスを設定します。
ステップ 9	UCS-A/system # <b>commit-buffer</b>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

トランザクションをコミットすると、管理セッションから切断されます。新しい管理 IPv6 アドレスに再接続します。

## 例

次の例では、両方の管理 IPv6 アドレスを変更し、仮想 IPv6 アドレスを変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope fabric-interconnect a
UCS-A /fabric-interconnect # scope ipv6-config
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config # set out-of-band ipv6 2001:10::157
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # set out-of-band ipv6-gw 2001:10::1
```

```
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # set out-of-band ipv6-prefix 64
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # scope fabric-interconnect b
UCS-A /fabric-interconnect* # scope ipv6-config
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # set out-of-band ipv6 2001:10::158
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # set out-of-band ipv6-gw 2001:10::1
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # set out-of-band ipv6-prefix 64
UCS-A /fabric-interconnect/ipv6-config* # scope system
UCS-A /system* # set virtual-ip ipv6 2001:10::156
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```